

トピック ①

「子どもまんなかフェスタ」に 親子400人が参加

群馬子どもの権利委員会 芦田 朱乃

子どもまんなかフェスタへの想い

「子どもまんなかフェスタ」は、群馬子どもの権利委員会が主催し、子ども食堂や子育て支援等に関わる 19 の個人・団体が参加して、2月11日（日）に前橋プラザ元気 21 のにぎわいホールで開催されました。

フェスタ開催の目的は、こども基本法が施行され「こどもまんなか社会」の実現に向けて群馬でもさまざまな動きが始まろうとする今、子どもも大人も一緒に遊び、体験し、交流することを通して子どもたちの幸せを願う人々の繋がりを広げ、子どもの権利への理解を深め、子どもたちが安心して成長できる環境を築くことです。特に、参加した子どもたちや大人たちが遊びや参加する楽しさ（権利条約 31 条「休息・余暇・遊び・文化の権利」）を共有することに重点をおきました。

約 400 人の親子が楽しく遊ぶ♪

当日の参加者は子ども 190 人以上、大人 200 人以上でした。開始 15 分前から入場待ちの列ができ、子どもたちは「早く遊びたい」「楽しそう」と期待しながら保護者に話しかけていました。

オープニングは、ステージで小学生の女の子による開会宣言があり、「こども応援音楽ユニット こども魂」のバンド演奏で始まりました。明るく楽しいリズムの音楽を聞きながら、来場者はそれぞれが気になる遊びのブースに足を向けていきました。

最初ににぎわったのは、群馬トヨペットによるバルーンアート教室、群馬ヤクルト販売によるヤクルト容器での工作とゲーム、JOY キッズによるスイーツデコ工作があるワークショップエリアでした。スイーツデコは、ガラスびんの蓋に紙粘土のホイップクリームを絞り、その上



JOY キッズ スイーツデコ工作

にクッキーやアイスの形のパーツやビーズなどを飾って世界に 1 つだけのケーキをデザインする工作了。どの子も自分のデザインに真剣に取り組み、個性あふれる作品を完成させました。

木のおもちゃコーナーや NPO 法人あそびの学校による昔あそびのコーナーでは、隣で遊ぶ知らない子同士がだんだん一緒に遊ぶようになる姿がたくさん見られました。特に昔あそびの皿回しや剣玉では、1 人が成功すると、周りで見っていた子どもや大人が「やってみたい」と集まってきて昔あそびに挑戦し、幅広い世代で交流していました。

一方、静かにじっくり遊びたい子どもたちは、折り紙・お絵描き・お話のコーナーに集まっていました。その日初めて会った子どもたちがテーブルの場所をゆすり合い、自分の世界に没頭して作品をつくり、またときどき作品を見せ合っておたがいの楽しい世界を共有していました。

子育てに関する相談活動 子ども食堂体験も

このように子どもたちが遊ぶ横に、軽く仕切られた相談エリアを用意し、保護者が子どもの様子を確認しつつ専門家に相談できる場所も作りました。群馬中央医療生協の小児科医による健康発達相談、群馬保育センター加盟保育園の

園長による子育て相談、NPO 法人 ぐんま若者
応援ネット アリスの広場による不登校・ひきこ
もりの相談、栗田洋亮弁護士による法律・人権
の相談、親子のための保健室®によるネットト
ラブル・ゲーム依存の相談、NPO 法人 学習支
援 HOPE による学習・進学相談の 6 ブースが
ありました。群馬中央医療生協では握力や血圧
などの健康チェックも実施し、特になかなか測
る機会のない握力測定は大人にも子どもにも好
評でした。

また、子ども食堂体験として 4 つの子ども食
堂が軽食を提供しました。メニューは、あつま
れ前橋スポット（前橋市）がふかしたサツマイ
モ、子どもワクワク食堂（安中市）が豚汁、ふ
らっとこども食堂（前橋市）がおしるこ、みど
りこども食堂ふっ（みどり市）がおにぎりでし
た。また、企業協賛としてみまつ食品、上毛食
品工業、群馬ヤクルト販売の各社から寄付して
いただいた食品を配布または調理して提供させ
ていただきました。子どもワクワク食堂では軽
食提供のほかに釣りゲームも実施しました。ス
タッフが手作りした折り紙マスコットは、おか
しのプレゼントよりも喜ばれました。

子どもの権利の啓発 子どもの意見表明

各エリアでの遊びや相談、軽食提供と並行し
て、ステージでは、よくある日常風景から子ど
もの権利を学べる寸劇「子ども人権劇場」（群
馬子どもの権利委員会）を発表。LGBTQ、不登
校、虐待、学習支援、子ども食堂、発達障害な
どの問題と、関連する子どもの権利、そして当
日のサポートブースを含めそのような問題に直
面したときに相談できる支援団体等を紹介しま
した。

また、会場の一画には子どもの権利条約を学
習できるユニセフのパネル展示と意見表明のコ
ーナーを設けました。意見表明では来場者が思
っていることを自由にふせんに書き、壁に貼り
付けていきました。子どもの意見表明には、「も
っとあそびたいよ！」「いっぱい1日中あそび

たい♡」「ゲームしたい」「ととろにあいたい」
「ガチでやすみがほしい！！」「毎日1時間で
学校おわってほしい」「勉強つまんない」「や
まにさげびたい」「トミカもっとほしい」など
がありました。

ゲームとの付き合い方の対談 うごキッズ体操

ステージでは、e-sports 事業を手掛ける本橋
壮太さんとゲーム依存予防に取り組む田中友里
さんによる対談、楽しく体を動かしつつ脳と体
の連携を強化するうごキッズ体操（吉田大祐さ
ん）の発表もありました。

対談「e-sports のリアルとゲーム依存」では、
積極的に会場から質問を受けながら、ゲームと
の付き合い方についてのアドバイスや、ゲーム
を家族のコミュニケーションツールにするとい
ったアイデアが語られました。睡眠不足や運動
不足がありデジタルメディアの利用時間が長い
と、自律神経が乱れ精神疾患につながりやす
くなるため、プロゲーマーは定期的な運動や十分
な睡眠も大事にするそうです。家族でそういう
話をすることや、子どもが好きなゲームを一
緒にプレイして感じたことを話し合ってみるこ
となど、「ゲーム=悪」と決めつけるのではなく、
適切な付き合い方があるというふうに子どもに
伝えてほしいと話されていました。

うごキッズ体操では子どもも大人もステージ
前に集まり、ぴょんぴょん飛びはねたり、腕を
大きく回したりと、元気に体を動かしました。



吉田大祐さん うごキッズ体操